



OSAKA
JAPAN

..... 国際ロータリー第2660地区 ■吹田江坂ロータリークラブ.....

SUITA ESAKA ROTARY CLUB

CLUB WEEKLY BULLETIN

創立年月日 / 1990.2.27
事務所 / 〒564-0063 吹田市江坂町1丁目23番101号(大同生命江坂ビル12F)
TEL06(6821)0222 FAX06(6821)0206 E-mail:esaka-rc@lake.ocn.ne.jp

例会場 / 新大阪江坂 東急イン・3F 〒564-0051 吹田市豊津町9番6号 TEL06(6338)0109 例会日 / 毎週火曜日 12:30~13:30
会長:水谷善博 幹事:延秀恵 会報委員長:内田正

2011年1月25日 第983回例会(第982号)

本日の例会

今週の歌 「R-O-T-A-R-Y」

卓話 「『さしがね』の話」

庄瀬 寛 会員

次回例会のお知らせ(2月1日)

卓話 「『日本刀』の話」

長島 寛 会員

前回〔1月18日〕例会記録

会長の時間 水谷 会長

皆様こんにちは。本日は人を含めた動物の寿命の話をします。

全ての生き物には寿命があり、命有る物は「誕生 成長 老化 死」の過程をたどります。「生きてる時間」は平均寿命(0歳児の平均余命)という言葉で表現され、生き物によってその長さが異なります。哺乳類は寿命は体重に正比例し、心拍数に反比例するという法則があります。「心拍数」とは、心臓のポンプ作用で全身に血液を送り出す回数を表し、1分間に何回と表現します。哺乳類ではその動物の種類によらず、一生の心拍数は一定で、およそ20~25億回とされています。一般的に体の大きい動物(体重の重い)ほど、1分間の心拍数が少なく長生きで、それと反比例するように、体の小さい(体重が軽い)動物ほど心拍数が多く寿命が短い法則があります。例えばゾウとハツカネズミを比べると、ゾウは体重が5t、心拍数30回/分、寿命80~100年

で、ハツカネズミは体重25g、心拍数600回/分、寿命2~3年です。他の動物ではウサギ:心拍数130~300回/分、寿命9年、イヌ:心拍数70~120回/分、寿命17年~18年、ウマ:心拍数32~44回/分、寿命30年とされています。この自然界の法則から唯一外れてしまったのが人間です。

2010年の日本人の平均寿命は、男性79.29歳、女性86.09歳、女性は世界一、男性は第5位です。しかし人の平均寿命の過去をたどると(報告者によりバラツキがある)紀元前500年頃は18歳、古代ローマ時代は22歳、縄文・弥生時代30歳、戦国時代35-37歳、江戸時代40-43歳、20世紀初めは58歳とされていました。人間の生存環境が変化し食物の確保と栄養状態、戦争等の争い、天地異変の知識と対応、病気に対する知識と治療の確立、新生児の死亡率の低下や感染症の克服等、医学医療の進歩により、昭和、平成において平均寿命は飛躍的に伸びました。しかしこの平均寿命の急速な伸びが一つの課題を生みました。平均寿命に対して「健康寿命」という言葉があります。人の手を借りず自分の事は自分で出来る寿命です。平成21年の健康寿命は男性71.4歳、

出席報告 田畑 委員長

【1月18日】
在籍会員 41名(内出席規定適用免除者 10名)
出席会員 30名(内出席規定適用免除者 5名)
ホームクラブ出席率 83.33%

12月14日のMUを含む出席率 94.74%

関西大学RAC例会出席担当
2月8日Gグループ 水谷、延、芳賀、田畑
庄瀬、小笠原各会員
会場:中央体育館 図書資料室
時間:19:00~20:00

私達は他人(ひと)を思いやり 奉仕の理想のもと 地域社会へ貢献するよう 努めます

「早春閑話」(1月11日・第981回)

米 谷 正 夫 会 員

人の言葉は“ことだま”といい言葉は“人なり”である。

日本人は“察する文化”とか“以心伝心の体質”即ちモノ言わずに、相手に意志を伝えるというやりかたに慣れている。

人間は生まれてから死ぬまで話すことは避けては通れない。相手の心を理解するためにも又自分の心を正確に伝えるためにも言葉の使い方、即ち話術を勉強しなければならないのである。

然し日本では“沈黙は金”、“口は災いのもと”などといっておしゃべりを見下してきた。“男はだまってサッポロビール”などとCMが昔流行したが、言葉で“ゴチャゴチャ”言わずに言外で自分の気持ちを伝えると言うことである。

然し以心伝心即ち心を持って心を伝えるという精神は通用しなくなってきたのである。

人の言葉は“ことだま”と言われ又言葉は人なりとも言われる。

言葉づかいで人柄がわかる。しゃべる言葉で人間がわかるのであって言葉は教養のバロメーターである。

人間いくら外見は立派でも、しゃべらせてみればどんな人間か、すぐ見抜かれてしまう。その人の持っている言葉の量と質そして使い方で、どれほどの人間か容易に判断できるのである。

言葉は日頃は案外無造作に使われているが“言葉の魔力”等と言われるように複雑な動きをする。使う人によって、使う場面によって、使われる言葉によって又聞く人によって、人各々の喜怒哀楽の感情や利害の得失の感情が絡まって、解釈は変わるのである。

言葉は時代を映す鏡であるとも言われるのである。何をどう話したらよいのか、基本的にわからないリーダーがいるが大切なことは、必要なことを必要なときに必要なだけ話せばよいのであって、余計なときに余計なことだけを話すから、トラブルが起きたり、人間関係も悪くなったりするのである。

話は立て板に水式で話す必要はない。自分の意見真情が相手に伝われば成功なのである。聞き手を説得し納得させられるような内容のスピーチを身につけることがリーダーには求められるのである。

大正昭和にかけてテレビ、ラジオで活躍し“話術の神様”とまで言われた徳川夢声は“ハナシは言葉を材料としてたてる建築であって上手に話すには豊

女性75.8歳でした。平均寿命から健康寿命を引いた年数7.8年～10.3年が大なり小なり人の世話になって生きていく期間になるわけです。この期間に、認知症や介護の問題、病気療養、終末期医療や延命治療などが関わって来る訳です。少子化・高齢化社会を迎えた今、医療者、介護者も、高齢者も若者も「どのように終わりを迎えるか」について、思いをめぐらす事が必要ではないのでしょうか。

幹事報告 延 幹 事

2011年2月のロータリーレートは、1ドル=84円。

G S E 第 2 回 打 ち 合 せ 会 議 の 案 内

日時：1月25日(火) 18:00～20:00

場所：ホテル日航茨木大阪 2階宴会場

長島ロータリー財団担当よろしくお願ひします。

第2組IMが2月5日(土)午後2時からホテル阪急エキスポパークで開催されますが、当日の受付は出席委員会をお願いいたします。なお受付担当者の集合時間は午後1時です。

米山奨学会より、功労者の感謝状が届きました。

米谷正夫、西本健二、大森洋子、八橋志夫各会員

ニコニコ箱

赤尾会員 結婚記念日のお祝、有難うございました。

新井会員 先週欠席しました。すいません。

延 会 員 緊急卓話、さてどうなりますことやら…。

原 会 員 明けましたおめでとうございます。誕生日の花ありがとうございます。

北村(康)会員 昨年“雅子の葬儀”には多数の方のご臨席を得て無事“式”を終える事が出来ました。ありがとうございました。

それと欠席のおわび。

今 村 会 員 本年もよろしくお願ひ致します。

西 本 会 員 結婚記念日お祝いありがとうございます。あつこわが命!!

山 崎 会 員 みな様今年もよろしくお願ひ致します。

本日分 57,000円

累 計 996,000円

富な言葉の整然たる倉庫になることである”といっている。そしてよい話をするには別に雄弁を必要としてない。

ハナシは最後はその人の人格に行き着く、ハナシは人格の標識である。故に他人から好意を持たれる人格を養うことであって、あえて聖人たれとは言わないが、ハナシは個性が絶対必要である。

良い心と強い個性を養うことが話上達の極意であり言葉は人の心を温めるためにあると断言されたのである。

言葉は立派だが言うだけで終わる人がある。これは単なる“口舌の徒”にしか過ぎない。知識だけを身につけたのではこれは単なる“ものしり”である。知識は講義を聴くだけで又本を読むだけでも身につけられる。然しこれだけでは人間の信念と行動力とかには成らない、見識がなければならぬのである。

1つの問題について色々な見方解釈が出る。いわゆる知識である。問題を解決するため“こうしよう”とか“かくあるべし”という判断は人格体験あるいはそこから得た“悟り”というモノが必要になってくる即ち見識である。そして断固として実践する力が必要なのである。之が胆識である。知識と見識を持っていても胆識がないと優柔不断におちいるのである。

話には目的がある。何のために話すのかという目的意識を持っていないと相手は聞いてくれないのである。話には4つの目的がある。1つは説明、2つ説得、3つ日常の会話、4つ人前での話し、この目的を間違えないようにして話すことである。

今説明しているのか、相手を説得しているのか、親しみを深める会話をしているのか目的意識を持って話をするのである。

今日の話をもどのように感じられたかと思いつつ話を終わります。(代読者：堀田総会員)

卓 話

「禁煙して1年が過ぎ…」(1月18日・第982回)

延 秀 恵 会 員

昨年、2010年1月27日に急にタバコを止めてから、1年と3週間になる。きっかけは、一昨年12月の検査。ドクターが少し気になると言われ、明けて1月27日、生まれて初めて呼吸器検査を受けた。鼻を洗濯ばさみのような物ではさみ、思いきり吸った息を最後までしぼり出すように機械につながったチューブにはき出す。動作は簡単だが、むつかしくてしんどい。普段、気づかず鼻で息をしていることの重要性を大いに知る。結果は、慢性間質性肺疾患。それで

も呑気な私は「病気じゃないですよね？」と尋ねた。先生に一喝。万が一歌うことにさしさわってはとの思いで、その時に止めた。その後1~3ヶ月程は、自分自身の脳と喉との戦い?(私自身はそんな感じがした)であったが、“おやつ昆布”と“キシリトールガム”に助けられ、今では、完全なノンズモーキング。若き部長先生に“叱って下さってありがとうございます!”と感謝している。

国際ロータリー・ニュース：2011年1月17日
2011 - 12年度R Iテーマ「こころの中を見つめよう
博愛を広げるために」

「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」
- 2011年国際協議会の開会本会議において、カルヤン・パネルジー R I 会長エレクトは次年度の R I テーマを発表し、ロータリアンの決意と内なる力を鼓舞しました。

「何かを成し遂げようと思うなら、ありとあらゆる知恵を振り絞らなければなりません。それには、まず自分自身の内側から始めるしかないので」と会長エレクト。内に秘めたる力を見出せば、世界各地で偉大なことを成し遂げることができると話します。「自らを発見し、潜在的な力を引き出し、迷わず、ひるむことなく、『出でて奉仕し』、世界で博愛を広げてください」

会長エレクトはまた、「家族」が奉仕の原点となると強調します。「私たちの住む地域社会とは、単なる個人の集まりではなく、家族によって築かれています。一つ屋根の下に暮らし、互いを支え、助け合い、共に運命を分かち合っているのが、家族というものです。良き家族が、良き隣人となり、良き地域社会をつくるのです」

ポリオ撲滅などの活動を継続する重要性も強調します。「私たちには得意とすることが数多くある」と話す会長エレクトは、きれいで安全な水の提供、識字力の向上、明日のリーダーとなる青少年の育成を例に挙げます。

「世界の変化を望むなら、あなた自身がその変化にならなければならない」というガンジーの言葉を引用して会長エレクトは語ります。「平和を望むなら、家庭に、地域社会に、自分自身の生活に平和をもたらすことから始めるのです。環境破壊に歯止めをかけ、子供の死亡率を減らし、飢えを減らしたいと望むなら、自分自身がこの変化の担い手とならなければならない。それにはまず、自分自身の中にこそ変化を起こすことの必要性を認識しなければならないのです」